

無料 (ご自由にお持ち帰り下さい)

編集・発行 / 茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター



茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 ホームページ <http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>

2019年
Vol.36

ほっとタイムズ

病院長メッセージ「女性に優しい国？」

冬の感染症「インフルエンザ」について



友部小学校5年生 医療教育モデル事業

ドクター紹介 5

脳神経外科 部長 木村 泰
循環器外科 部長 森住 誠

病棟で活躍する認定看護師 5

糖尿病看護認定看護師 堤 まゆみ・藤田由佳

トピックス 6

がん県民公開セミナーを開催しました /
糖尿病週間イベント / 地域医療懇談会 /
がん相談支援センターイベント開催報告 / 秋の音楽会
PCUクリスマス会が開かれました!

連携医療機関のご紹介 8~9

井出整形外科内科クリニック / あやか内科クリニック
菅谷歯科医院 / あさひ歯科クリニック

地域連携だより 各診療科のご紹介 10

放射線診断科・IVR

第24回 公開講座開催のお知らせ 12

職員募集



冬の感染症 「インフルエンザ」について

冬の季節に大流行するインフルエンザ。インフルエンザの感染力は強く、発症すると本人がつらいのはもちろん、免疫力や抵抗力の弱い乳幼児やお年寄り、持病がある方にとっては命にかかわる場合もあります。感染を防ぐためには、まず正しく理解することが大切です。今回は呼吸器内科部長 兼 感染制御室長の橋本幾太先生にお話をうかがいました。



呼吸器内科部長 兼 感染制御室長
橋本 幾太

Q:はじめに、インフルエンザと風邪の違いについて教えていただけますか。

橋本医師 (以下、橋本) : どちらもウイルスによって、咽頭痛、鼻汁、咳など症状が出ますが、風邪にくらべてインフルエンザは、症状も感染力も強く、重症な合併症を起こすこともあります。

Q: インフルエンザの症状はどのようなものがありますか。

橋本 : 突然の38℃以上の熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、倦怠感などから始まり、その後、咳、鼻汁などが1週間ほど続きます。しかし、全く症状のない例や、感冒様症状のみでインフルエンザに感染していることを本人も気が付かない軽症の例も少なくありません。



Q: 人によって症状もそれぞれなのですね。ではインフルエンザの合併症についても教えていただけますか。

橋本 : インフルエンザは、肺炎、気管支炎、時に脳炎、急性脳症、異常行動などを併発して重症化し、死に至ることもあります。特に高齢者や乳幼児など抵抗力の弱い人、慢性疾患で体力が衰えている人ほど重症化しやすくなります。また、細菌性肺炎の原因となることもあります。

Q: それと、抗菌薬はインフルエンザに効果はあるのでしょうか？

橋本 : インフルエンザウイルスに抗菌薬は効きません。しかし、インフルエンザにかかることにより肺炎球菌などの細菌にも感染しやすくなるため、細菌感染の合併に対する治療として、抗菌薬等が使用されることはあります。

Q: 風邪は年中みられるのに、インフルエンザが冬に激増するのはなぜですか。

橋本 : インフルエンザウイルスは、気温20℃以下、湿度20%程度を好むため、夏にはごく小規模な感染しかおこさないと思われれます。また冬は、窓を閉め切ることが多いことも、蔓延を助長していると考えられます。

Q: ワクチンの接種を受けても、インフルエンザにかかることがあります。ワクチンは効果があるのですか？

橋本 : インフルエンザウイルスは鼻や気道の細胞で増殖しますが、インフルエンザワクチンは、細胞への侵入を完全に防ぐというものではありません。しかしウイルスの増殖などを阻害し、ある程度は発病を抑えることができ、症状が重くなることを阻止する効果があります。(報告では、65歳以上の老人福祉施設・病院に入所している高齢者については34~55%の発病を阻止し、82%の死亡を阻止する効果があったとされています。)

Q: それから、ワクチンは毎年接種した方が良いでしょうか。

橋本 : 通常成人では1回の接種で2週後から血中の抗体の量が増え始め、4週でピークに達し、3~5カ月後から低下するため、翌年には効果は期待できません。また、インフルエンザウイルスは、頻繁に小変異をおこすため、昨年のワクチンは、今年流行するインフルエンザとは型が違い、免疫効果が出ない可能性が高いのです。



Q：では、インフルエンザにかかった時はどうすればよいですか？

橋本：①具合が悪ければ早めに医療機関を受診しましょう。

②安静にして、休養をとりましょう。特に、睡眠を十分にとることが大切です。

③水分を十分に補給しましょう。お茶でもスープでも飲みたいもので結構です。

④咳やくしゃみ等の症状のある時は、周りの方へうつさないために、不織布製マスクを着用しましょう。

⑤人混みや繁華街への外出を控え、無理をして学校や職場等に行かないようにしましょう。

Q：ちなみに、インフルエンザはどのように感染するのでしょうか。

橋本：インフルエンザの人が1回くしゃみをする、200万個のウイルスが半径1.5メートルに飛散して、周囲の人の鼻や口からウイルスが侵入して感染します。また、くしゃみを手で押さえたりしたときに手についたウイルスを、知らぬうちに触れたものに付けてしまうことがあります。そこを知らずに触った人の手にウイルスが付着して、その手で鼻や口に触れることにより感染することもあります。

Q：最後にインフルエンザの予防はどのようにしたらよいか教えてください。

橋本：ワクチンの接種はもちろん、規則正しい生活をして免疫力を高めておきましょう。また、4ページにあります「正しい手洗い」や「マスクの付け方」、「咳エチケット」など正しい知識を身につけ、最大限の予防をしましょう。その実践こそが自分自身だけでなく、周りの方の感染を予防します。



—感染制御室より当院の感染対策についてご紹介します—



感染管理認定看護師

ささしま じゅんこ
笹嶋 純子

当院は先進的医療を担う自治体病院です。感染症を持っている患者様に対して感染対策を実施するとともに、感染を受けやすい患者様を含め病院を出入りする全ての方々（患者様、そのご家族様、ご面会の方々）を病院感染から守る責務があります。

感染制御室は、感染対策に関する基本的姿勢を全職員に周知し、全職員が理解及び実践し安全な医療を提供できるよう取り組んでいます。感染症発生状況を監視、感染症に関する相談、行政との情報共有などを行っています。

—インフルエンザ対策について 皆様へのお願い—

当院を受診
される方

来院時、発熱、風邪症状（咳・鼻水・咽頭痛など）、関節痛、倦怠感がある場合は、受付へ早めにお申し出ください。また、来院時はマスクを着用し、廊下に設置されているアルコールで手指消毒を診察前後、食事前、トイレ後に行うようお願いします。

ご面会
される方

マスクを着用して、病棟入口や病室前にあるアルコールで必ず手を消毒してから室内へ入るようお願いします。また、お帰りの際も手の消毒をお願いします。面会時の注意点については、院内ポスターをご覧ください。患者様を守るためにご理解、ご協力をお願いします。

いざ
実践!

さあ みんなでインフルエンザ 予防対策をしましょう

できていますか?正しい手洗い ~インフルエンザを含む感染症予防の基本は手洗いです!~

~手洗いの方法~



※手洗い後、ハンドクリーム等の保湿剤を使用するなどして手荒れ対策にも気をつけましょう。

- ①手を洗うときは、時計や指輪をはずす。
- ②爪は短く切っておく。
- ③流水で手を十分に濡らす。
- ④液体せっけんなどを用い、洗い残しの多い部位(指先、指の間、手首および親指の付け根)に注意して、約20秒程度、手指全体を強くこすり合わせる。
- ⑤手の高さは腕より低くして、指先から水が落ちるように流水ですすぐ。
- ⑥すすぐときに、水が衣類や床に飛びはねないようにする。
- ⑦洗い終わったら、ペーパータオルなどを用いて、両手を完全に乾かす。
- ⑧水道の栓は、できるだけ直接手で触らないようにして閉める。(手の再汚染を防止するため)

正しいマスクの装着法

マスクを付けるとき

- 鼻・口・あごを完全に覆う。
- 鼻の形に合わせて、ワイヤーを折り曲げ、マスクと顔面に隙間が出来ないようにフィットさせる。

マスクを外すとき

- マスクの表面は触らないようにする。
- 耳付近のゴムをつかんで外し、直ちにゴミ箱へ捨て、手を洗う。



咳エチケット



●そのまま咳をする

●手で押さえる



●マスクをする

●ハンカチやティッシュで
口・鼻を覆う



●服の袖で
口と鼻を覆う

はじめまして! 新入職員のご紹介



脳神経外科 部長(脳血管障害・脳腫瘍担当) **木村 泰**

生まれは長州萩です。天狗党に賛同するつもりはありませんでしたが、学生時代からレジデント期間を主に筑波で過ごしました。その後、紆余曲折があり、水戸齊昭に啓発された訳でもありませんが、最近まで日立にいました。この10月に笠間に赴任してきました。九ちゃんの唱、とくに『上を向いて夜空の星をみよう』などは好きなので(但し歌詞の内容に天体観測上の大きな誤謬があることは気になります)この地で働くことに縁を感じます。日本天文学会準会員として『脳神経外科疾患に関わる宇宙論』をライフワークとして、皆様方のご指導を賜りながら、笠間市を中心とした茨城県中央地域の医療の発展に携わっていきたいと思います。



循環器外科 部長(大動脈疾患担当) **森住 誠**

2019年10月から当院循環器外科で勤務しています。医師としてももう20年を超えてしまいました。茨城県は自然が多く住み心地がよく、その大半を同県で過ごしています。専門は主に成人心臓大血管領域の外科的治療ですが、下肢静脈瘤などの末梢血管治療も多数経験しています。地域の一員として頑張りますのでよろしくお願い致します。趣味は水泳や登山をしていますので、仕事以外でもお気軽に声をかけてくだされば幸いです。

● 当院で活躍する認定看護師 ●

糖尿病看護認定看護師

堤 まゆみ・藤田 ゆか



糖尿病治療の目標は、「健康な人と変わらない日常生活の質の維持と健康な人と変わらない寿命の確保」です。そのためには血糖・体重・血圧・血清脂質の良好なコントロール状態の維持が大切であり、それが合併症の発症、進展の阻止につながります。

私達の役割は、患者様やご家族が糖尿病とうまく付き合いながら生活できるように一緒に考えていくことです。看護外来では、血糖値等検査データからの振り返りやフットケア(足の観察やお手入れ)、インスリン注射や血糖測定等療養指導を行っています。そこでは多くの患者様やご家族との出会いがあります。その出会いから、多くの事を学ばせていただいております。今後も、患者様・ご家族に寄り添った看護が提供できるように努めてまいります。



がん県民公開セミナーを開催しました

10月19日につくば市のつくば国際会議場で、11月2日に水戸市の茨城県総合福祉会館で県民の皆さまへの普及啓発を目的にがん県民公開セミナーを開催しました。今年のテーマは「新時代・肝胆膵がんへの挑戦」。消化器内科、消化器外科の医師より肝臓がん、胆道がん、膵臓がんそれぞれに関する内科治療と外科治療について、現状や今後の展望を含めてお話いただきました。



| | |
|---------------------------------|---|
| <p>テーマ 「肝臓がんの内科治療・外科治療」</p> | <p>(株)日立製作所日立総合病院 消化器内科 副院長 鴨志田 敏郎先生 東京医科大学茨城医療センター 消化器外科 主任教授 鈴木 修司先生</p> |
| <p>テーマ 「胆道がんの内科治療・外科治療」</p> | <p>総合病院水戸協同病院 消化器内科 部長 鹿志村純也先生 茨城県立中央病院 消化器外科 医長 工藤 宏樹先生(つくば会場) 茨城県立中央病院 消化器外科 医長 奥村 貴之先生(水戸会場)</p> |
| <p>テーマ 「膵臓がんの内科治療・外科治療」</p> | <p>筑波大学附属病院 消化器内科 講師 森脇 俊和先生 総合病院土浦協同病院 消化器外科 部長 伊東 浩次先生</p> |

ご参加いただいた方からの感想

●ほどよく専門的知識が得られるちょうど良いレベルのセミナーでした。この時間でこれだけ密度の濃い情報が得られるのは大変貴重な機会でした。●「がん」に対する知識が増えました。参考にしたいと思います。●各先生方が熱心に討論していただき、大変ありがたかったです。●難しいガンについて内科・外科の両方向からお話を伺って分かりやすかったです。●それぞれのガンについてもっと詳しく聞きたい。●臨床の現場でかつ第一線で活躍している先生から直接話を聞くことが出来る貴重な機会なので、毎年参加しています。



糖尿病週間イベント

11月14日の世界糖尿病デーにちなんで、当院でも11月12日～15日に糖尿病週間イベントを開催しました。掲示物や冊子の展示で糖尿病の予防や治療についての周知を図るとともに、気軽に糖尿病のことや健康について相談できる療養相談コーナーや血圧・血糖・体脂肪測定コーナーを設け、連日たくさんの方にお越しいただきました。

地域医療連携懇談会

年に一度、当院では地域の病院・診療所との連携を深めるために懇談会を開催しております。当院を少しでも皆さんにご理解いただくため、年度ごとにテーマを決め、そのテーマに沿った診療科から講演をいたします。今年是小児科、内分泌代謝・糖尿病内科、消化器外科、そして開催以来、初めて、精神科と歯科口腔外科も登壇し、講演を行いました。歯科診療所にもご案内しました所、反響が大きく、かつてない参加者数となりました。診療が終わってからの遅い時間からの開催にも関わらず、遠方からの参加もあり、地域からの期待の大きさに身が引き締まる思いでした。また、開催にあたり、ご意見を賜りましたところ、こちらも過去最大の反響でした。時間の関係上、個別に回答はできませんでしたが、しっかり受け止め、できるところから対応して参りたいと存じます。貴重なご意見をありがとうございました。



がん相談支援センター PR活動報告



8月31日、「ファッションクルーズニューポートひたちなか」にて、茨城県保健福祉部疾病対策課がん対策推進室により「がん検診推進強化月間」の一環で、がん相談支援センターの啓発を行いました。県民の皆様へ、がん相談支援センターを知っていただけるよう、啓発グッズやリーフレットを配布しました。「がん検診はどこで受けられるの?」「もし私や家族が、がんと言われたらどこで相談できるの?」等のご質問をいただきました。今後も、身近で気軽に利用できる「がん相談支援センター」を目指してまいります!!



♪秋の音楽会♪

10月29日「～こころ温まる癒しの時間のお誘い～秋の小さな音楽会」を開催しました。歌手の新宮由理さん、森美佳さんとピアニストの芦沢真理さんによる秋の童謡メロデーなど美しい歌声と演奏を深まりゆく秋の夜長と共にお楽しみいただきました。



PCUクリスマス会が開かれました!



12月3日PCU病棟にてクリスマス会が開かれました。スタッフのハンドベルの演奏やご参加された皆さんと一緒にクリスマスソングを歌ったり、楽しい時間を過ごすことができました。サンタさんからクリスマスプレゼントも配られ、皆さんとってもうれしそうでした!

かかりつけ医を
持ちましょう

連携医療機関のご紹介

井出整形外科内科クリニック

院長 井出 誠

当院は茨城町役場に隣接しております。院長（井出誠）は国立水戸病院時代に主に外科・整形外科の診療を行い2004年1月に開業。副院長（井出健太郎）は研修医時代に茨城県立中央病院にてお世話になり、その後千葉県旭中央病院消化器内科での勤務を経て当院へ。

内科・整形外科を主として、小児科・皮膚科・泌尿器科など可能な範囲で対応しており、困ったときの窓口の一つとして機能していければと考えております。胃カメラや腹部エコー、腰痛・肩痛などの部位に電気療法・温熱療法や、イボの液体窒素治療、多種のワクチン接種も取り扱っており、最近では睡眠時無呼吸症候群の検査治療やスギ花粉症の免疫舌下療法も実施しております。予約制ではないので気の向くまま来院して頂ければ幸いです。



■所在地：茨城町小堤1144-1

■電話：029-219-2556

■診療科：内科、整形外科、小児科、皮膚科、泌尿器科

■診療受付時間：月火木金→午前8:30～12:30、午後14:00～18:00／水土→午前8:30～12:30

■休診日：水曜午後・土曜午後・日曜祝日

あやか内科クリニック

院長 白土 綾佳

平成29年1月に開院し、3年目を迎えようとしています。頼れるかかりつけ医を目指して全身を診る一方で、コウノメソッドによる認知症診療、メガビタミン療法などの新しい治療にも積極的に取り組んでいます。全て医者にお任せという従来の姿勢から、健康は自らの手で作るという姿勢をサポートします。

診察室内のみでの情報提供に限界を感じ、必要な知識を多くの方に届けることを目的に、今年4月に市内の有志と「薬にたよらず健康をつくる会」を立ち上げました。講演や映画上映、ブログやニュースレターなどで積極的な情報発信を行っています。「病にならない」予防と「病になっても大丈夫」な診療・環境が整う社会を目指します。



■所在地：笠間市八雲2丁目5-25

■電話：0296-71-3022

■診療科：内科、循環器内科、消化器内科、認知症

■診療受付時間：午前9:00～12:00、午後14:00～18:00

■休診日：木曜・土曜午後・日曜・祝祭日

ここでは患者さんやご家族の日常的な治療や健康管理を考えてくれる、地域の身近で気軽に相談できるかかりつけ医である医療機関をご紹介します。

菅谷歯科医院

院長 菅谷 和徳

当院は平成4年に開業して以来27年になります。一般歯科を中心にっております。地域から公共機関の便は悪く車で来院される方がほとんどですが、駐車スペースは十分にあります。近所のお年寄りの方が多く、自転車や徒歩で来られますので大変重宝されております。一応予約制ですがどちらかと言うとあまり厳格ではなく、昔ながらののんびりとした体制で日々診療しています。

高度歯科治療は行っておりませんが、口腔外科や矯正治療やインプラントでも信頼のおける先生に紹介いたしております。また、茨城県立中央病院と地域医療連携を行っており、周術期口腔機能管理を行っております。これからも地域歯科医療に貢献していきたいと思っております。



■所在地：笠間市押辺513
■電話：0299-45-8360

■診療受付時間：午前 9:00～12:00、
午後14:30～18:30（土曜日17:30）
■休診日：木曜・日曜・祝日

あさひ歯科クリニック

院長 片岡 優

2000年に旧友部町に開業して、オリンピックイヤーで20年となります。『当院は都心レベルの治療を茨城で』をコンセプトに、最新の設備（オペ室、CT、マイクロスコープ、セレック、レーザー、iTero）と知識、技術を駆使し、日々診療しております。特にインプラント治療は20年の経験と実績がありますので、何でもお気軽にご相談ください。また、矯正治療はワイヤーを使用しない目立たないマウスピースによる矯正（インビザライン）を中心に矯正認定医が治療にあたっております。また、7名の歯科衛生士が、予防、メンテナンス、周産期の口腔ケア（県中と連携）を行っております。

かかりつけ歯科で定期検診とメンテナンスを受ける事で、健康寿命を伸ばし、クオリティー・オブ・ライフを高める手助けをしたいと考えております。



■所在地：笠間市旭町92-4
■電話：0296-78-0821
※WEBで診療予約可能

■診療受付時間：午前9:00～12:00 午後14:00～18:30
※木曜・土曜の午後は18:00まで診療。日曜日は月2回診療。
■休診日：日曜午後

地域連携 だより

地域連携機関の皆さま方には当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、患者さんにおかれましても常日頃ご支援をいただき、誠にありがとうございます。地域連携だよりのコーナーでは当院の情報をお知らせいたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。

各診療科のご紹介



放射線診断科・IVR

こやま けん
部長 児山 健

放射線診断科は患者さんには馴染みが薄いかもかもしれませんが、病院において実はとても大切な仕事をしています。最近、ラジエーションハウスというドラマにもな

りました放射線技師が撮影した主にCT、MRI、消化管造影、核医学検査(PETなど)などの画像検査に対し、放射線診断科は画像診断レポートを作成し、各診療科をサポートしています。このように、画像診断はあらゆる臓器が対象となるため範囲も非常に広く様々な知識が必要となります。また、放射線技師が撮影する画像検査に対し、我々放射線診断医が依頼内容に適した最適な撮影方法、撮影条件などを指示し個々の患者さんにおいてよりよい、適切な画像を撮影しています。

そして、放射線診断科では画像診断以外にもIVR (interventional radiology：画像誘導下治療)で直接患者さんの治療も行い、様々な科をサポートしております。IVRも同様に馴染みが薄いと思いますが血管造影・超音波・CTなどの画像ガイド下に経皮的に行う治療で、腫瘍や血管病変など全身の幅広い疾患に低侵襲性治療を行っています。IVRの手技としては根治的治療困難例や多発する肝細胞癌に対する肝細胞癌の治療である経皮的肝動脈化学塞栓療法(TACE)や出血に対するカテーテルを用いた血管塞栓術やCT、超音波を用いて膿瘍(膿)に針を刺し、ドレナージ(※)を行ったりしています。当院のIVRの特色としては全国に十数台しかない装置を導入しており、腎癌を凍らせて治療する凍結治療を行っています。緊急時でも24時間対応できるようにIVRではオンコール体制を取っています。

現在、医療スタッフは放射線診断医4人、放射線技師30人(放射線治療技師：8人)、看護師4人、受付4人で日々の診療を行っています。また、他の診療科とカンファレンスを定期的に行い、困難な患者さんの治療方針を一緒に考え、検討もしています。それから、周辺医療機関からの画像検査も地域医療連携室を通し積極的にお受けしており、画像診断レポートを作成し依頼元に返信をしています。

今後ともよろしく御礼申し上げます。

(※) カテーテルなどを用いて、血液、膿、滲出液、消化液など体内に貯留した液体を体外に排出することをいいます。

—第19回—

「女性に優しい国？」

茨城県立中央病院
茨城県地域がんセンター

よし かわ ひろ ゆき
病院長 吉川 裕之



医療の現場から女性が暮らしやすい国について考えるとき、思い出すことがあります。それは私が総合診療医（病気を心身から全体的に診療する医師）について検討する委員会に加わった時のことです。総合診療医は年齢にかかわらず診療するという観点から、診療に小児も含むという点については複数の人の意見の一致がありましたが、性別にかかわらずという点については消極的で、それに加え、妊娠女性を対象にしたくないという雰囲気を感じました。一方、アメリカの家庭医（総合診療医）は分娩にさえ関わることがあるので、妊娠女性の内科的診察も当然行います。また、妊娠前に利用する妊娠前相談は家庭医の仕事であり、妊娠後も妊娠のリスク評価や喫煙・飲酒、葉酸の摂取、子宮頸がん検診、ワクチン接種、内科合併症に対する薬剤の調整（安心な薬への変更）などについても相談に乗っています。それに比べると本邦の医師は一般的に妊娠と薬について無関心であるように見受けられます。ひとつ例をとってみますと妊娠中・後期に降圧剤として投与されたACE-IやARBによって胎児死亡が少なからず起こっているのです。それは本邦の医薬品添付文書では降圧剤に関して、さほど危険でない薬剤にまで禁忌になっているために、本当に禁忌な薬剤を理解していない医師が多いように思います。

もう一つ最も有名なケースに経口避妊薬（ピル）があります。中用量ピルの時代を含めると欧米に比べて、承認は1960年から実に40年も遅れ、世界で最も遅い1999年に承認されています。しかし、望まない妊娠を避けるために自費で経口避妊薬を服用することを40年間も承認しなかったにも

かかわらず、バイアグラに関しては申請からわずか半年で承認されているのです。低用量ピルの承認に反対したのはHIV感染症（エイズなど）の専門家でありましたが、その多くは男性研究者であり、また承認について関与したのも40~60歳代の男性役人でした。望まない妊娠を予防する手段の重要性を知るのは女性であるのにもかかわらず、女性が承認の決定に関わっていなかったのです。また、この当時のマスメディアには現在ほど女性も多く活躍しておらず、10代女性が中絶していることも、その父親が知ることはあまりありませんでした（母親は知っていても）。本邦での承認後、最近、経口避妊薬は3%~6%（欧米では50~60%）と急に普及が始まり、現に10代の中絶は減少しています。

私が日本産婦人科学会で周産期の医師不足対応の担当になった2005~6年には、多くの新聞社、テレビ局の担当記者に女性が増えてきたことにより、我々の訴えに耳を傾けてくれ、周産期医療の実情を理解し、社会に向け情報発信してくれたように思います。男性記者中心なら、このような改革は進まなかったであろうと思います。おそらく、今なら経口避妊薬を承認しないようなことが起こったとしたら、女性記者をはじめ、女性役人、女性医師などが黙っているとは思えません。女性のQOL（生活の質の向上）を高める重要な意思決定の場に女性を参加させていないのは問題です。今後はこのような場にもきちんと女性も参加し、本邦が真に女性が暮らしやすい国＝女性に優しい国に変貌することを期待したいと思います。

第24回 公開講座開催のお知らせ

当院では、平成12年3月から毎年地域の皆様を対象とした公開講座と医療相談等を行っており、今回で24回目を迎えます。

今回は、「茨城県立中央病院におけるロボット支援手術への取り組み」をテーマとして、当院医師による講演会を行います。また、専門医による医療相談や管理栄養士による栄養相談、看護師による看護相談、薬剤師によるお薬相談、ソーシャル・ワーカーによる医療費相談を行いますので、お気軽にご相談ください。

講演内容

「ロボット支援手術のこれまで—日本の現状—」

「泌尿器科のロボット支援手術」

「子宮体癌に対するロボット支援手術」

「肺がんのロボット手術について」

※講演に参加される方は、事前にお申し込みをお願いします。

※医療相談等は当日受付での先着順になります。応募者多数の場合は、時間の都合でご相談をお断りすることがあります。

※参加費は無料です。

日 時 令和2年2月29日(土)

医療相談等：12:30～13:30 講演：13:30～15:15

会 場 当院 外来ホール、内科診察室

申込方法 講演に参加される方は、事前に「参加申込書」をご提出ください。

参加申込書は当院窓口などに置いてあります。また当院ホームページからダウンロードできます。必要事項をご記入のうえ、直接総合受付にご提出いただくか、FAXまたはEメールでお申込みください。お電話でのお申し込みも承ります。

問合せ・参加申し込み先 茨城県立中央病院総務課

電話 (0296)77-1121 内線2016(平日：月～金曜8:30～17:00)

FAX (0296)77-2886

E-mail soumu@chubyoin.pref.ibaraki.jp

ドクターズ・クラーク(医師事務作業補助者)の募集

募集人員：5名程度

雇用期間：採用から2020年3月31日まで

契約更新有り(条件有り)

業務内容：医師が行う事務作業の補助をする業務です。

電子カルテへの診察記録の代行入力

診察に関するデータの抽出、作成

各種保険の診断書や証明書などの作成代行

カンファレンスの準備及び資料・議事録の作成など

必要経歴：医事業務の経験等があることが望ましいが、未経験者でも可。パソコンスキル(エクセル・ワード)

賃 金：時給1,141円、他に賞与あり(院内保育所：空きがある場合は利用可)

勤務時間：原則9:00～16:00(週29時間勤務)

多くの女性スタッフが活躍中!

仕事と家庭の両立もサポート。

ご連絡先：事務局総務課 黒澤

☎0296-77-1121(内線2024)

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 ホームページ <http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>